



公益財団法人
日本体育協会



日本体育協会のスポーツ参画人口の拡大方策 ～第2期スポーツ基本計画を受けて～ 専務理事 泉正文



平成29年4月18日

日本体育協会の国民スポーツ推進方策

◆イベント事業

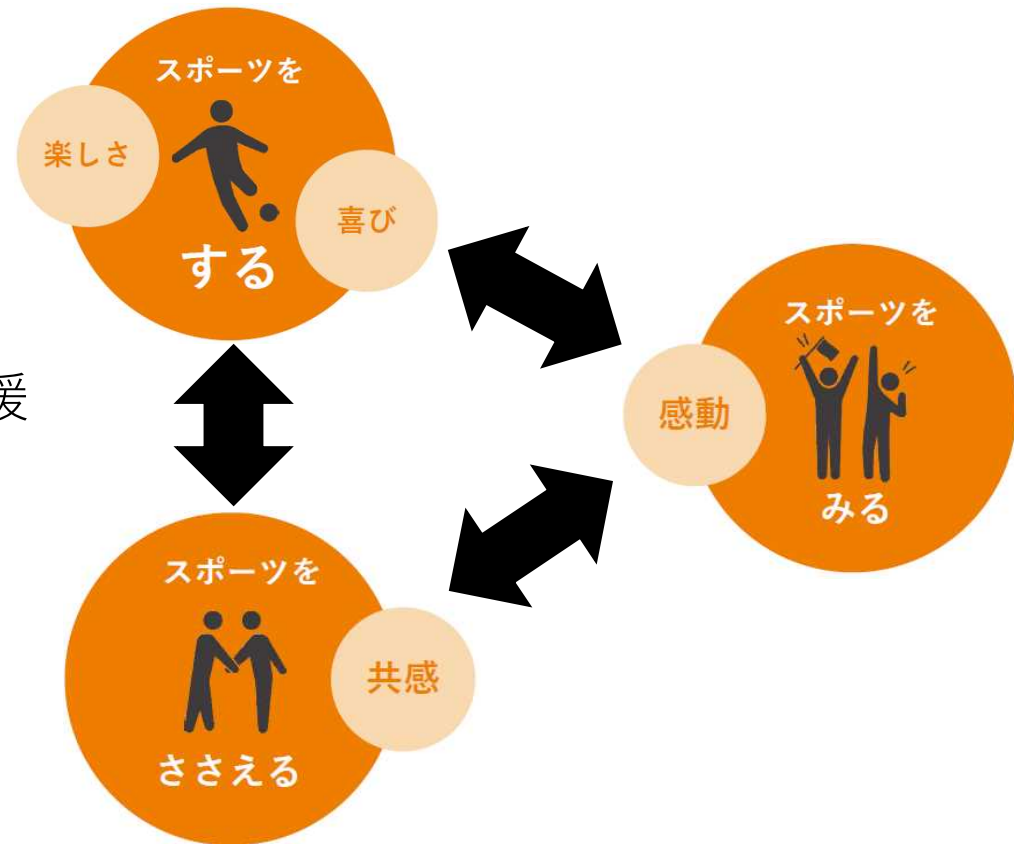
国民体育大会（国体）
日本スポーツマスターズ
国際交流（選手・コーチ）

◆クラブ／エリア事業

- ・スポーツ少年団の育成
- ・地域スポーツクラブの育成・支援
- ・地域スポーツ施設の整備促進と運営支援

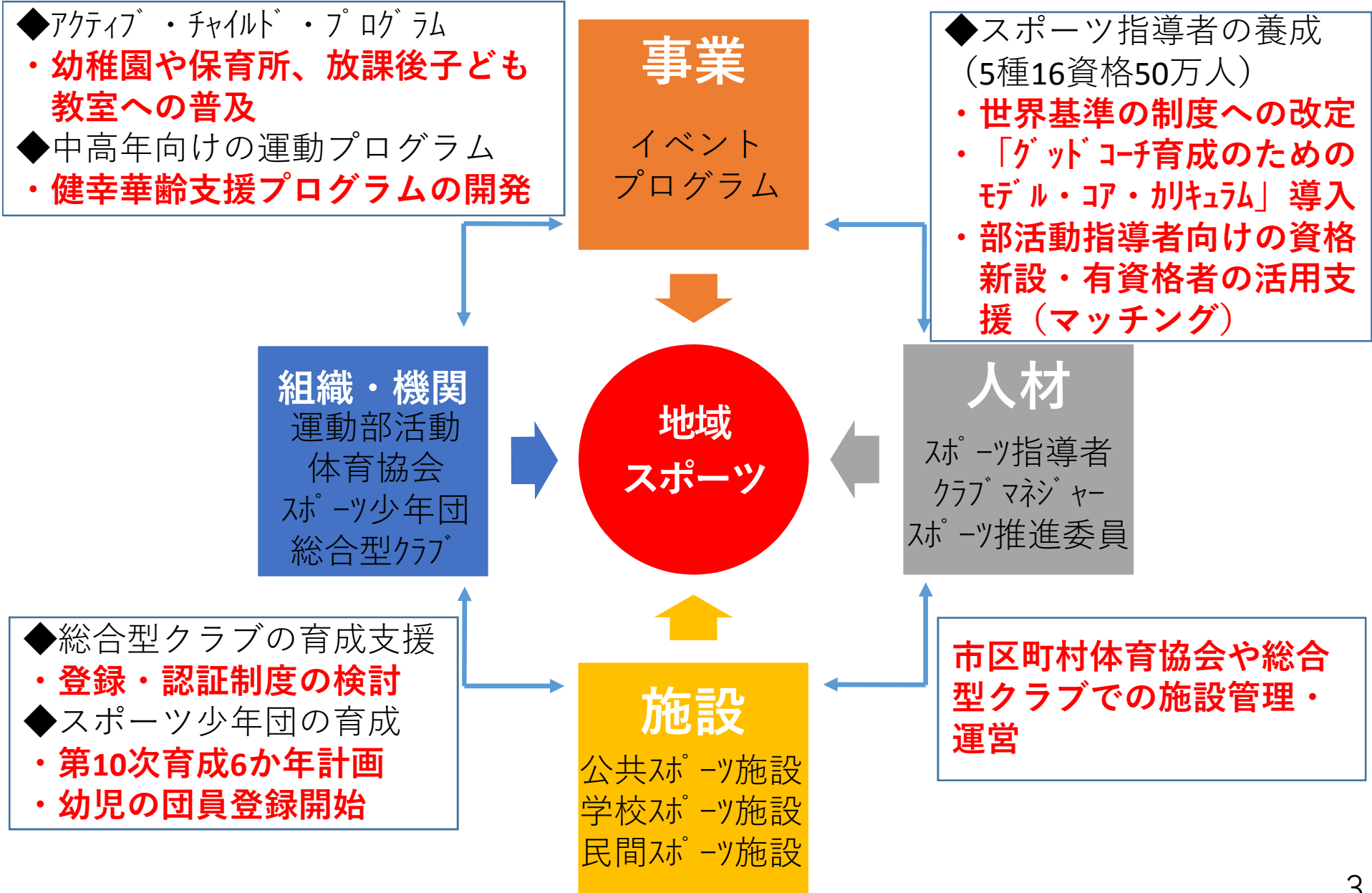
◆ソフトインフラ事業

スポーツ指導者育成（資格認定）
スポーツ医・科学研究
スポーツ情報・広報
社会貢献活動



子どもから高齢者まであまねく人々が生涯にわたってスポーツを安全に、楽しく「する、みる、支える」ことができる環境を整備（＝生涯スポーツ社会を実現）するための事業を推進しています。

スポーツ参画人口の拡大に向けた今後の取組み



日本体育協会公認スポーツ指導者制度改定

達成目標

日本体育協会公認スポーツ指導者制度を我が国スポーツ界全体で方向性を共有した世界基準の指導者制度にする

ミッション

- Mission.1 : 新しい時代に求められる資格のあり方を検討し、「スポーツ・コーチングに関する国際枠組み（ISCF）」を参考に、指導者のパスウェイを明確にする
- Mission.2 : 国内スポーツ団体と連携し、各団体の人的・情報資源を活用したオールジャパンでの指導者育成体制を確立する
- Mission.3 : コーチ育成のためのモデル・コア・カリキュラムを導入する
- Mission.4 : 学校教員の資格取得を支援する

モデル・コア・カリキュラムの導入

グッドコーチに求められる資質能力

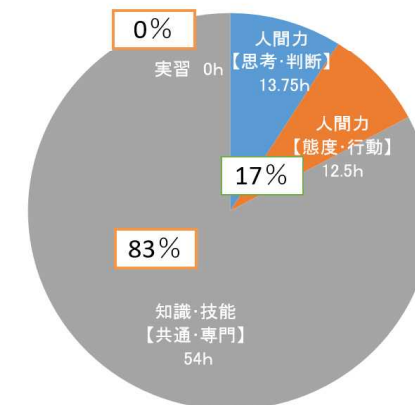
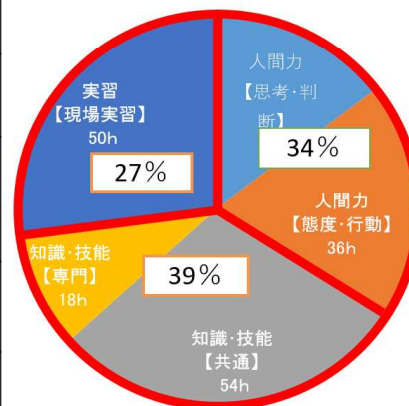
人間力(思考・判断):自分自身のコーチングを形づくる中心にあるもの
 人間力(態度・行動):プレーヤーや社会との良好な関係を築くために必要な資質能力
 知識・技能(スポーツ知識・技能):スポーツ指導を行ううえで必要となるスポーツ科学の知識・技能

人間力	思考・判断		スポーツの意義と価値の理解、コーチングの理念・哲学(人が好き、スポーツが好き、スポーツの意義と価値の理解、プレーヤーやスポーツの未来に責任を持つ、社会規範、スポーツの高潔性)
	態度・行動	対自分力	学び続ける姿勢(自己研鑽)、前向きな思考・行動、くじけない心、課題発見力、課題解決力、自己統制、内省、社会規範
		対他者力(人、社会)	基本的人権の尊重、相互理解、プレーヤーズ・ファースト、暴力・ハラスメントの根絶、コミュニケーションスキル、マネジメントスキル、目標設定、協力・協調・協働、長期的視点、関係構築力
知識・技能	スポーツ知識・技能	共通	あらゆるコーチング現場に共通するスポーツ科学
		専門	個々のコーチング現場別(競技別、年代別、レベル別、障がいの有無など)に求められる専門知識・技能

モデル・コア・カリキュラムと日本体育協会現行カリキュラムの比較

人間力	思考・判断	27h	34%
	態度・行動	36h	
知識・技能	一般共通	54h	39%
	専門共通	18h	
実習	現場実習	50h	27%

人間力	思考・判断	13.75h	17%
	態度・行動	12.5h	
知識・技能	一般共通	126.25h	83%
	専門共通	0h	
実習	現場実習	0h	0%



導入計画

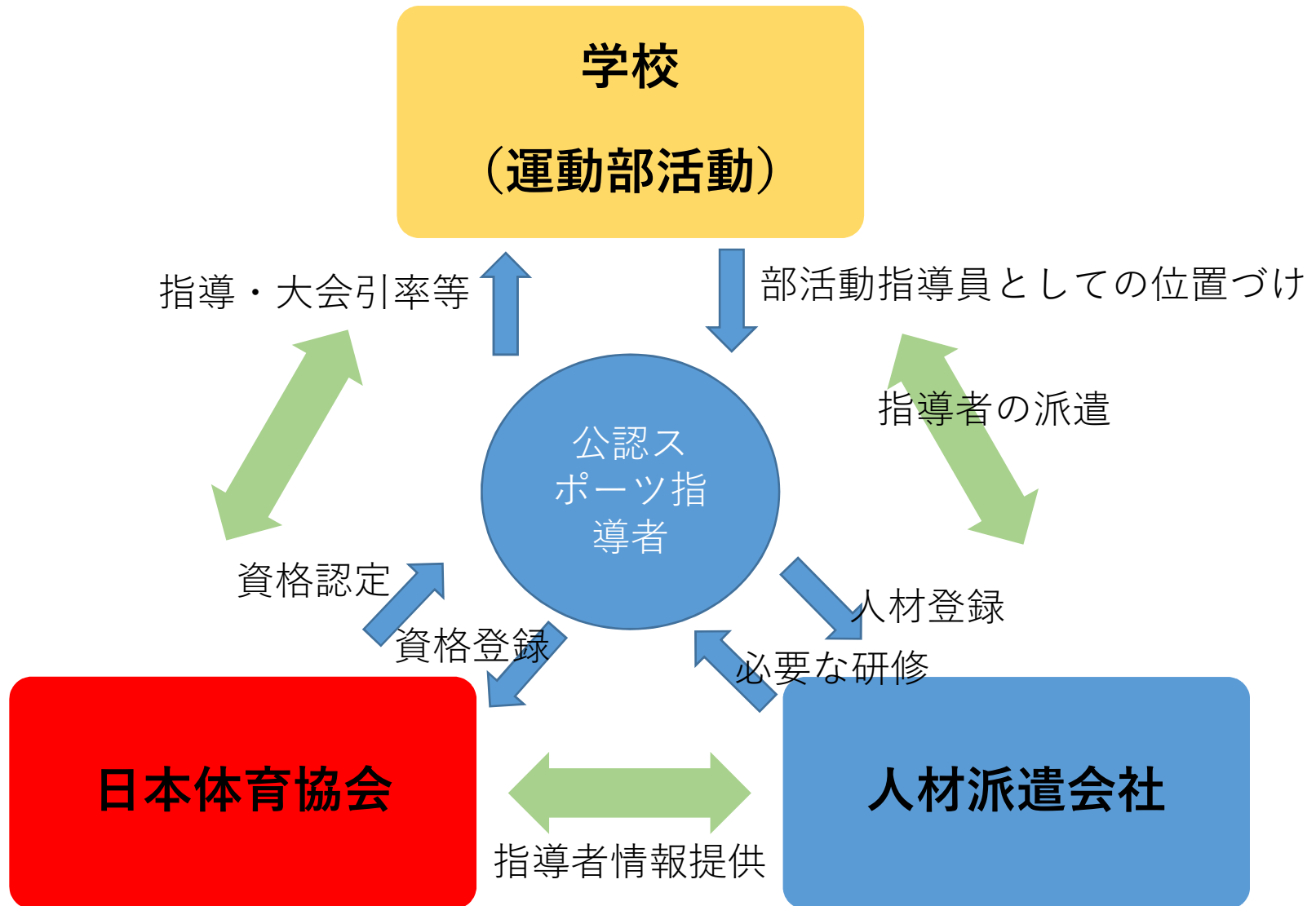
< 日本体育協会 >

- 平成30年度から指導者資格更新のための研修、指導者養成講習のカリキュラムに導入

< 大学 >

- 教員養成系・体育系大学授業への導入に向けて平成30年度から全国の大学へ普及促進 (H28~29年度は大学でのトライアル実施)

部活動指導員へ有資格者の活用支援（マッチング） イメージ



日本スポーツ少年団第10次育成6か年計画-アクションプラン2017-

～スポーツで人々をつなぎ、地域づくりに貢献しよう～

● 全体目標

スポーツを通して地域の人々がつながるスポーツ少年団組織の構築

● 数値目標

2022(平成34)年度までに対象年齢に対するスポーツ少年団への登録率を増加させる(約10年前の水準に戻す)

● 目標達成に向けた取組み(計20項目)

1. 組織の整備・強化 2. 指導者・リーダーの育成 3. 活動の充実
4. スポーツ少年団の理念の普及・実践とオリンピック・ムーブメントの推進

- 重点アクション：① 理念の継承と意識の改革
② 制度の改革
③ 活動内容の改革

↑ [策定]

↓ [実行]

<策定背景>

スポーツ少年団の将来像

東京2020
オリンピック・
パラリンピック
競技大会の開催

スポーツ推進方策

スポーツ宣言日本

- スポーツの21世紀的価値
- 素朴な運動の喜びを公正に分かち合い感動を共有する
 - 身体的諸能力を自在に活用する楽しみを広げ深める
 - 自らの尊厳を相手の尊重に委ねる相互尊敬

スポーツ
基本計画

スポーツ
基本法

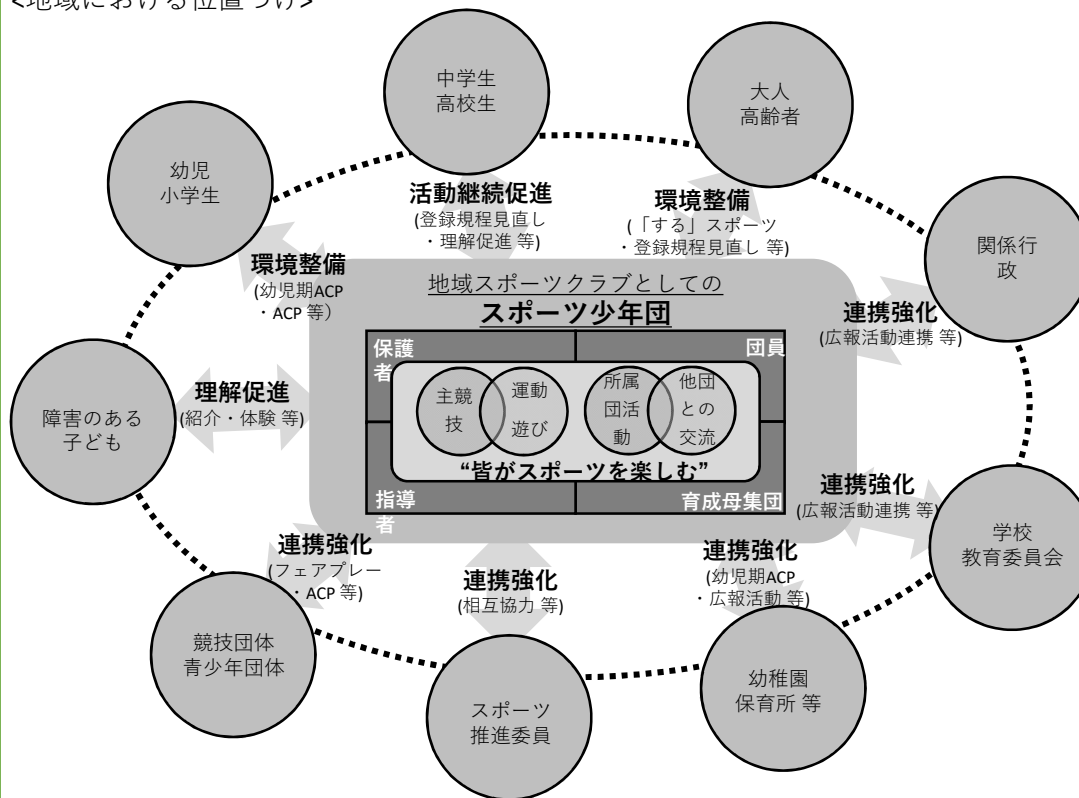
スポーツ少年団の理念の実現

- 一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを提供する
- スポーツを通じて青少年のこころとからだを育てる
- スポーツで人々をつなぎ、地域づくりに貢献する

[結果・成果]

スポーツを通して地域の人々がつながる

<地域における位置づけ>



アクティブ・チャイルド・プログラム

児童期（小学校低～中学年）



(2011年10作成)

幼児期（年中～小学校低学年）



(2015年2月作成)

アクティブ・チャイルド・プログラムとは、ガイドブックのすべてを通じた一連の指導法のこと

みんなで遊んで元気アップ！ **アクティブ**★ **チャイルド**★ **プログラム**

1 いつも塾や習いごとで忙しい、遊びはゲーム、移動はクルマやエスカレーター。
でも、からだを動かさなくていいのかな？

からだを動かすのって楽しいんだよ。



じ〜としてたらストレスたまらない？ 太らない？

からだを十分に動かしていないから動作がぎこちなかったり、できなかったり。

走る・跳ぶ・投げるという基礎的動き、ちゃんとできてる？



からだを動かして遊んでいけば、動き(動作)も上手になる。

動きの質ってどうやって評価するのかな？

2

3 楽しみながらからだを動かせる。それがアクティブ・チャイルド・プログラム！
さあ、からだを動かして元気になろう！

運動遊びや伝承遊びを紹介するよ。



楽しいプログラムっていっぱいあるんだね！

本来は好きなことだから、サポートがあれば子どもはからだを動かすもの。

からだを動かしたくなるように学校や地域も工夫してるよ！

4

励まし合い、助け合う仲間がいる！



上達する喜びが味わえるよ。



★ 子どもの発達段階に応じた運動プログラムの重要性 1

1 子どもの身体活動の原素 5

- ★ 子どもの体力や身体活動の現状 5
- ★ 子どものライフスタイルの問題点 9
- ★ 元気な子どもを育てるために 10

2 基礎的動きを身につけることの重要性 13

- ★ 適切な量と質を満たした身体活動の重要性 13
- ★ 発育発達の人差と動きの質 14
- ★ 動きの質のとらえ方(動きの評価方法) 15
- ★ 走動作(50m走)の観察評価 17
- ★ 跳動作(立ち幅跳び)の観察評価 19
- ★ 投動作(ボール投げ)の観察評価 21
- ★ 遊びプログラムへの応用 23

3 遊びプログラム 25

- ★ 運動遊び 25
- ★ プログラム例[運動遊び] 27
- ★ 伝承遊び 47
- ★ プログラム例[伝承遊び] 49

4 場・しかけの重要性 59

- ★ 身体活動の習慣化を促すアプローチ 59
- ★ 体力ピカット週間[小学校] 63
- ★ 枠小タイム
一朝のスポーツタイム-[小学校] 65
- ★ fun-土/Flags[スポーツクラブ] 67
- ★ コダイラスロン[保護者との連携] 69

幼児期からの

アクティブ☆ チャイルド☆ プログラム

みんなで遊んで
元気アップ!

1

本当はからだを動かすことが
大好きな子どもたち。
でも、子どもたちがからだを
動かせる環境が不足しています。
全国のスポーツ少年団が、
幼児期から子どもたちを
受け入れるよ!



2

幼児期は、元気に遊んで
多様な動きを身に付ける
大切な時期。

幼児がからだを動かす意義や、
幼児の発達特性に
ついて理解しよう!



3

身の回りにある道具を使って
遊ぶこともできるし、
昔から受け継がれてきた伝承遊びを
楽しむこともできる。

特別なことをしなくても、
幼児は夢中になって
からだを動かして遊ぶよ!



4

幼児に対する指導のコツや、
安全のための
配慮事項があります。

一人ひとりの成長を
支援して、
楽しく遊ぼう!



5

スポーツ少年団や幼稚園の実践事例・
振り返りチェックリストを紹介。

元気な子どもたちを
育むために、
情報を共有しよう!



はじめに.....1

1章 スポーツ少年団における幼児加入条件の整備 5

- 1. スポーツ少年団の現状と課題.....5
- 2. 指導者の役割および指導体制の整備.....7
- 3. 育成母集団やリーダーの活用.....9

2章 幼児期における身体活動・運動の意義 13

- 1. 身体活動・運動・体力の現状と問題点.....13
- 2. 幼児期における運動の意義.....16
- 3. 幼児期(3~6歳)の発達特性.....23
- 4. 基礎的動きの質的評価(観点).....31

3章 運動遊びプログラムの紹介 35

- 1. 発達段階に応じた遊びの展開例.....35
- ボール.....37
- 新聞紙.....45
- ロープ.....41
- 模倣(表現).....53
- 鬼遊び.....49

2. 「伝承遊び」の活用.....57

- 押しくらまんじゅう.....59
- すもろ遊び.....61
- めんこ.....63
- 紙鉄砲.....65
- 鬼ごっこ.....67
- どんじゃんけん.....69
- ゴム跳び.....71
- Sケン.....73
- だるまさんが転んだ.....75
- かくれんぼ.....77

4章 幼児の指導法・指導技術 79

- 1. よい指導者としての観点.....79
- 2. 指導のコツ.....82
- 3. アレンジの仕方や発想.....91
- 4. 安全管理上の配慮事項.....94

5章 実践事例 99

- 1. 指導事例(スポーツ少年団).....99
- 2. 指導事例(幼稚園).....101
- 3. 家庭との連携事例.....103
- 4. 指導者と保護者のためのチェック項目.....106

Q&A(よくある質問と回答).....111

安全管理チェックリスト.....巻末

アクティブ・チャイルド・プログラム(ACP)の活用

小学校でのACP活用事例

小学校がACP講師を招き、児童にさまざまな運動遊びを体験してもらうことで、からだを動かすことの楽しさを感じてもらう

教員を対象としたACP研修会を併せて開催し、教員にもACPに興味を持ってもらい、体育の授業や休み時間の運動に利用してもらうことを狙いとする



幼稚園でのACP活用事例

2人で力を合わせて、よーいどん!!

ウォーミングアップ終了後は、2人で力を合わせて、さまざまな運動にチャレンジしました。自分だけではなく、お友達とコミュニケーションをとりながら、体を動かすことを学びます。

幼稚園において、ACPを活用した月1回のスポーツ教室、毎朝の外遊びを実施。年少、年中、年長のそれぞれに合わせた声掛け、指導の工夫を行い、幼児にさまざまな運動遊びを体験してもらうことで、からだを動かすことの楽しさを感じてもらおう。

1

お友だちと2人ずつの大きなお風呂をつくってください。自分から声をかけていください。

2

それでは、黄色さんはあざらしポーズ、ピンクさんは足を持ってあげてね。そのまま、1、2、3、……10。

3

次は、お風呂の周りをよーいどんで散歩していきます。

黄色さんは、お風呂の外からピンクさんのお尻をタッチしてください。

2人組運動

●お友だちの気持ちを考えてチャレンジしよう
2人組になって行う遊びです。手押し車は2人でコミュニケーションよくしないと、上手に前へ進まない遊びです。